

国語科学習指導案

令和2年11月27日(金)第3校時 第2学年3組(1年3組教室) 指導者 長嶋 愛香

【単元】すみれちゃんになってみよう(『わたしはおねえさん』光村図書2年下)

| 考察 | 知識及び技能 | 思考力, 判断力, 表現力等 | 学びに向かう力, 人間性等 |
|-------------------|--|--|--|
| 育成を目指す資質能力 | <ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する技能 (C(1)ク) | <ul style="list-style-type: none"> 場面の様子に着目して, 登場人物の行動を具体的に想像する能力 (C(1)エ) 文章の内容と自分の体験とを結び付けて, 感想をもつ能力 (C(1)オ) | <ul style="list-style-type: none"> 言葉がもつよさを感じるとともに, 楽しんで読書をし, 国語を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする態度 |
| 児童の実態 | <ul style="list-style-type: none"> 明瞭な発音で文字を確かめながら音読することができる。 文章を読んで想像したことを生かしながら, 声の調子や速度等の表現に気を付けて音読することに弱さがある。 | <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の表情・口調・様子, 行動の理由を具体的に想像する力が不十分である。 文章を読んで, 短い感想をもつことはできるが, 文章を読んで自分が感じたことをひとまとまりにしたり, 自分の体験と結び付けた感想をもったりすることに課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 文学的な文章を読み, テキストで用いられている言葉から様々なことを感じたり, 感じたことを言葉にしたりしようとすることはできる。 複数の叙述を結び付けて, 感じたことを伝えようとするのは苦手である。 |
| 価値 | <ul style="list-style-type: none"> 『わたしはおねえさん』は, 小学2年生の主人公のすみれちゃんの歌や独り言の言葉から, 自立心の高まりを同学年の児童が共感的に想像できる文学的な文章である。そのため, 登場人物になりきって物語世界を想像する力を高める。また, 心に残ったことを紹介文としてまとめ, 友達に伝える活動は, 登場人物と自分との共通点や相違点を認識し, 文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつ力を高める。さらに, 自分と友達とで異なる, 心に残ったことが表出することは, 互いの考えを聴き合おうとする態度を育む。 心内語や会話文を中心に音読したものを聴き合うことは, 登場人物の行動について具体的に想像しながら, 声の調子や速度等を工夫して音読しようとする力を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> すみれちゃんの年長者としての行動と, かりんちゃんの幼さ故の行動が入り混じった出来事が描かれているため, 自分の家族構成やこれまでの経験, 友達の体験を基にした考えを基に, 二人の登場人物の行動の理由等を具体的に想像して読む力を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> 同学年のすみれちゃんの行動を想像したり, すみれちゃんの心内語や会話文を中心に音読したりすることを繰り返すことは, 言葉のもつよさを感じるとともに, 同年代の児童が登場する本に興味をもち進んで読書をする態度を育む。 |
| 財・考 | <p>『わたしはおねえさん』のテキストで用いられている, 登場人物の会話文や行動描写の言葉の意味, 働き, 使い方に着目しながら, 対象と言葉, 言葉と言葉との関係を捉えたり問い直したりして, 文学的な文章を読み味わうこと。</p> | | |
| 今後の学習 | <p>2年「そうぞうを広げて(『スーホの白い馬』光村図書2年下)」において, 物語を読んで想像することと音読することを繰り返し, 文章を読んで感じたことや分かったことを積極的に共有しながら, 登場人物の行動を具体的に想像する学習へと発展していく。</p> | | |

指導と評価の計画

| | | | | |
|---------------|---|--|--|---|
| 目標 | 物語の登場人物の行動について想像したことを基に、自分の感じたことを中心とした感想をもつことができる。 | | | |
| 読活動 | 自分と同年代の登場人物の物語を読み、想像したことや心に残ったことを伝え合う活動 | | | |
| 評価 規準 | (①知・技)語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(C(1)ク) (②思・判・表)「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) (③主体的態度)積極的に文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って心に残ったことを書こうとしている。 | | | |
| 過程 | 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」 | |
| つか む | 1 | ○「わたしはおねえさん」を読み、心に残ったことを基に学習課題を設定する。 学習課題例：自分と登場人物を比べながら、心に残ったことを紹介しよう | ○登場人物と自分を比べて読むことへの課題意識をもてるよう、心に残ったことを共有する際、「すみれちゃんになって感じたこと」や「かりんちゃんになって感じたこと」の視点で感想を板書する。 ○想像したことを基にした紹介文を書くことへの意欲を高められるよう、想像したことが記述されていない紹介文のモデルを提示する。 | ◇登場人物と自分との共通点や相違点に関心をもち、これまでの文学的の文章の学習を想起しながら、学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③> ◇紹介文に入れたいことを発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③> |
| | 1 | ○物語を読み味わう段階と紹介文を書く段階とを分けた学習計画を立てる。 | ○想像したことを基にした紹介文を書くことへの意欲を高められるよう、想像したことが記述されていない紹介文のモデルを提示する。 | ◇紹介文に入れたいことを発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③> |
| ふか める | 6 | ○すみれちゃんの行動について想像したことを聴き合う。(本時2/6) ・自分の歌を作って歌うすみれちゃん(教科書p.56~p.57) ・コスモスの水やりをするすみれちゃん(教科書p.58~p.61) ・ノートに何か書いたかりんちゃんとそれを見たすみれちゃん(教科書p.62~p.65) ・笑い合うすみれちゃんとかりんちゃん(教科書p.66~p.67) | ○場面の様子に着目して、より具体的に登場人物の行動を想像できるよう、「登場人物になって感じる」「登場人物を見て気付く」という視点を示した本文シートをペアに一セット用意する。 ○心に残ったことを中心に聴き合えるよう、本文シートに印をつける際、心に残った「したことを表す言葉」「言ったことを表す言葉」を観点として提示する。 ○想像したことを音読しながら確かめられるよう、ペアで一台のタブレットに音読を録音する機会を設定する。 | ◇登場人物の行動を想像する際に、場面の様子に関わる叙述を根拠として指摘している。 <発言・本文シート②> ◇心に残った「したことを表す言葉」「言ったことを表す言葉」を中心に、複数の叙述をつなげて、登場人物の行動について具体的に想像したことを発言したり記述したりしている。 <発言・本文シート②> ◇想像した場面の様子に合った声の調子や速度、大ききで音読している。 <録音された音読①> |
| | 2 | ○物語の中で心に残ったことの紹介文を書く。 ・紹介したい登場人物の行動や会話を選ぶ。 ・自分の心に残ったことをまとめる。 | ○登場人物の行動や気持ちと自分の経験とを結び付けられるよう、自分と登場人物との共通点や相違点を記述できる学習プリントを用意する。 | ◇登場人物と自分の共通点や相違点について記述している。 <学習プリント②> |
| ふり か える | 1 | ○紹介文を読み合い、感想を伝え合う。 | ○想像したことの違이에着目して感想をもてるよう、友達の紹介文について「同じところ」「違うところ」という観点を提示する。 | ◇想像したことを友達と聴き合ったことのよさを発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③> |
| | 1 | ○同年代の児童が登場する本を探して読む。 | ○同年代の児童が登場する本に興味をもつきっかけとなるよう、メディアルームにある同年代の児童が登場する本を提示する。 | ◇同年代の児童が登場する本を読んだ感想を記述している。 <ノート③> |

本時の学習（4 / 12 時間目）

ねらい コスモスの水やりをするすみれちゃんの行動について想像したことを聴き合うことを通して、自分の心に残った叙述を基に、登場人物の行動をより具体的に想像することができる。

評価項目 心に残った「したことを表す言葉」「言ったことを表す言葉」を中心に、複数の叙述をつなげて、登場人物の行動について具体的に想像したことを発言したり記述したりしている。 <発言・本文シート②>

| 学習活動と児童の意識 | 指導上の留意点 |
|--|--|
| <p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「妹や一年生のお姉さんだから、自慢そうな気持ちのすみれちゃんだね」って友達は言ってくれたな。今日は続きのところを読んで、もっとすみれちゃんになりきったりすみれちゃんのことが分かったりできるようにしたいな。（課題意識） </div> | <ul style="list-style-type: none"> ○前時までの学習状況を想起できるよう、前時の場面を録音したペアの音読を聴き、伝わってきた想像を互いに伝え合うよう促す。 ○本時の学習内容と学習課題の解決とのつながりを自覚できるように、学習計画をモニターに表示し、本時のめあてを問いかける。 |
| <p>めあて：2場面のすみれちゃんのしたことや言ったことを想像したり音読したりしよう</p> | |
| <p>2 想像したり、音読したりすることを繰り返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の「そうだ。」は何か気付いた感じの読み方だなあ。私は普通に読んだだけだったかも。あと、「するんだわ。」のところも、偉そうなすみれちゃんの感じが伝わってきて、いいな。私は「するんだわ。」って言い方が、お姉さんぶっているって思ったけど、どう思ったのかを友達に聞いてみよう。 ・「えらいおねえさんになって、りっぱなことをしたくなりました。」というのが、心に残っているな。二年生だから、しっかりしないとって気持ちだよな。 ・宿題をしようとしていたのに水やりを始めちゃったのは、何か分かるなあ。お姉さんぶっているけど、他に気になることがあると宿題が後回しになっちゃうよね。 ・他のペアの友達は、春に種を蒔いたのはすみれちゃんだったのか。確かにそうかもしれないな。自分で育てている大事なコスモスってことだし、だから気になって、窓の外を見ていたのかもしれないな。 ・大事なコスモスだから、コスモスの歌のところは大事そうに音読してみよう。 | <ul style="list-style-type: none"> ○想像したことの違いを音読の仕方の違いから感じ取れるよう、家庭学習として提出したロイロノートのカードに録音されたペアの友達の音読を「伝わってくる想像」の視点で聴き合うよう促す。 ○登場人物の行動を具体的に想像するための手がかりを得られるよう、心に残った「したこと」「言ったこと」の叙述に印を付けながら、想像したことをペアの友達と聴き合うよう促す。 ○複数の叙述をつなげて想像するきっかけを得られるよう、本時の場面のすみれちゃんの行動について分からないことをクラス全体に向けて、問いかける。 ○複数の叙述をつなげて、より具体的に想像できるように、他のペアの友達がうまく想像できないことをクラス全体で紹介する。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・お姉さんぶっているすみれちゃんの気持ちや大事に育てているコスモスのことがよく分かったよ。それに、ペアの友達からコスモスが大事そうに聞こえた音読だったよって言ってもらえてうれしいな。（課題を解決した意識） </div> | <ul style="list-style-type: none"> ○想像したことの確かさを実感できるように、すみれちゃんの会話文と地の文とをペアで役割分担をし、ロイロノートのカードに一度だけ録音した上で、「伝わってくる想像」の視点で聴き合うよう助言する。 |
| <p>3 本時の学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心に残っていることは「そうだ、コスモスにお水をやらなくちゃ。」かな。だって今日はコスモスの大事さがよく分かったからね。そういえば、「そうだ」は最初にもあった言葉だったな。宿題をやることを思いついた時と同じ「そうだ」なのかなあ。 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習の達成感や課題を実感し、次時の見通しをもてるよう、心に残ったことを書き抜くとともに、「分かったこと／まだよく分からないこと」「できたこと」の視点に沿って学習を振り返った感想をノートに書くよう促す。 |

授業の振り返り

※授業の様子は、本校 HP でも紹介しています。
【教育研究→令和2年度提案・部内授業の様子】

| | |
|-------|---------------------------|
| 機器 | タブレット（1人1台）、高感度マイク（ペアで1台） |
| 使用アプリ | ロイロノート |
| 機能等 | テキストカード（録音、保存） |

○実際の授業の流れと児童の様子

【導入】 児童は前時に1場面（すみれちゃんが自分の歌を作って歌う場面）を具体的に想像しながら音読し、その様子をテキストカードに録音した。前時の学習内容を振り返るために、録音した音読を聴いた。その際、自分や友達が着目した「やさしい」「元気な」「すごいでしょ」というすみれちゃんの歌の歌詞を基に、「すみれちゃんがお姉さんぶっていた感じだね。」と、想像したことを伝えていた。これは、前時に録音した音読をロイロノートで保存できたことにより、音読を聴くことで、想像した内容を具体的に振り返ることができた姿だと考えられる。そして、学習計画を見ながら、1場面の続きである2場面を具体的に想像していくことを、本時のめあてとした。

【展開】 児童は、ペアの児童が前日の家庭学習で録音した2場面の音読を聴いた。音読から伝わってくる想像を聴き合う児童がいる一方で、音読の仕方の違いがあっても、すみれちゃんのどのような状況を想像していたのかを友達に尋ねることなく、聴き合いが始まらない児童がいた。これは、音声のみでは互いの想像したことの違いに気付くことができず、互いの着目した叙述も捉えることができていない姿だと考えられる。

その後、児童は、ペアで1セットの本文シートを用いて、「すみれちゃんがしたこと」「すみれちゃんが言ったこと」の視点で、自分の心に残った叙述に線を引ながら想像したことを聴き合った。ここでは、コスモスの歌の歌詞の一部や晴れた朝の様子に線を引ながら、想像したことを話し始めた。しばらくはペアで想像し



<本文シートに書き込む様子>

たことを聴き合っていたが、ある児童から「すみれちゃんが何で自然と歌うか分からない。」という問いが教室全体へ投げかけられたことで、すみれちゃんが自然とコスモスの歌を歌う場面の様子について想像したことを聴き合うことになった。そして、コスモスの気持ちを感じ取るすみれちゃんになりきって、本時の場面をテキストカードに録音した。この音読を聴きながら、「（今の読み方は）違うかも。」とつぶやいていた。これは、自分の音読を保存できたことにより、想像したことを確かめることができた姿だと考えられる。しかし、聴いた音読を基に、想像したことを友達に尋ねる姿はなかった。これは、「声の強弱」



<音読を録音する様子>

「声の大きさ」「読む速さ」等の音読の仕方の工夫によって、想像したことを聴き取ることに慣れていなかったからだと考えられる。

【終末】 児童は、学習の振り返りをする中で、「心に残ったところ」として本文の叙述を抜き出したり、想像したことを詳しく書いたりした。コスモスの歌の歌詞を取り上げながら、すみれちゃんが宿題よりコスモスに気を取られた状況について自分の言葉でまとめて記述する姿も見られた。

○授業改善に向けて

- ・家庭学習では、右のカードに音読を録音したが、着目した叙述が可視化・共有化できるよう、音読の範囲を示した本文を掲載したテキストカードを用意し、家庭学習の中で、想像する際に着目した叙述に印を付けておくことが必要であった。

11/26 (木) しゅくだい
「わたしはおねえさん」
②の場めんだけ
読んでね!

- ・録音された音読から自分や友達が想像したことを聴き取れるよう、まず、「声の強弱」「声の大きさ」「読む速さ」等の音読の仕方の工夫がある <音読範囲が示された本文> ことについて学習経験を積むことが重要である。その上で、それらの音読の仕方の工夫と、想像したこととのつながりを意識できるよう、意図的に音読の違いを取り上げ、違いを問いかけることが必要である。

